

流域の治水・生物多様性に貢献する「鶴見川源流保水の森」



防災・多自然管理の進む鶴見川源流保水の森

取組の位置



東京都と神奈川県にまたがる鶴見川は、流域の86%以上が市街地化され、約200万人が暮らす都市河川

地域課題・目的

【地域課題】

- 鶴見川は流域の地形的な特徴に加え、急激な都市化による保水力の低下により水害の危険が高まり、流域での総合的な治水対策を1980年から進めてきた。
- 鶴見川流域に残された緑地は、長らく管理の手が離れ、荒廃が進み、竹林等の拡大、保水力の低下と生物多様性の危機に直面している。
- 特に源流域で森の整備を進め、保水力と生物多様性を向上させることが課題。

【目的】

- 雑木林を再生、土砂流出防止・保水力向上により、流域の治水に貢献する。
- 谷戸（小流域）の水循環を回復し、生物多様性向上に貢献する。
- 市民団体、学校、企業、行政の連携により、持続可能な活動につなげる。

取組内容

- 竹・ササ等を伐採し、クヌギ・エノキ等を植栽、雑木林を再生し、保水力と生物多様性を向上させる。
- 休耕田と小川の整備を行い、ホトケドジョウやホタル、カエル類の生息・生育・繁殖環境を回復する。
- 大雨の際、休耕田に一時的に水を貯め、下流への流出を抑制する「田んぼ調整池」を整備する。

取組効果

- 2010年以降、竹・ササ等を伐採し、クヌギ1,480本、コナラ60本、エノキ400本を植栽。約4.89haの雑木林を再生した(保水の森の協定範囲面積:27.32ha)。
- 健全な雑木林の育成、水循環の回復により、東京都発行のレッドリスト記載種では、哺乳類7種、鳥類28種、は虫類8種、両生類6種、昆虫類27種、甲殻類1種、魚類2種、植物22種の合計101種を確認。
- 2020年～24年に、27箇所・約3,300㎡の休耕田調整池を整備、総貯水量は660㎡となった。



クヌギ植樹（小山田小学校6年生）



田んぼ調整池



植樹後12年・成長したクヌギ林



エノキの落葉のオオムラサキ越冬幼虫

問合せ先

団体名：特定非営利活動法人 鶴見川源流ネットワーク
連絡先 E-mail：gnet-hp@genryu-net.jp TEL：042-798-2693

工夫した点

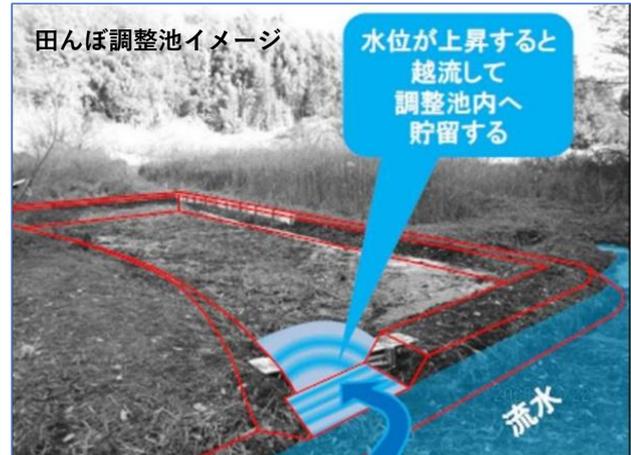
【学校・企業・行政と連携した雑木林再生】

- 町田市立小山田小学校では、**3年生がどんぐりを畑に植え、6年生の卒業前に成長した苗を源流保水の森に植樹**する活動を2009年から継続実施。初期に植えた苗は間伐を行うほど大きく成長、すでに成人となった卒業生が、森に見学に来るなど、活動が地域に根づいている。
- 東京環境工科専門学校では、**源流保水の森実習**を2013年から毎年実施。**ササを伐採し、延べ130本のエノキを植樹**し雑木林の再生を進めるとともに、人材育成を行っている。
- **アクアソーシャルフェス（トヨタ）、FMヨコハマ自然教室等、企業の環境イベント**を通じた植樹等も実施。



【休耕田を活用した治水・生物多様性貢献】

- 休耕田の畝を補修、補強、高さの不足する部分はコンパネでパラペットを設置し貯水容量を確保するとともに、降雨時に増水した小川の水を引込み、後から排水する、越流・排水構造を整備し、**雨水調整機能を整備**した。
- 水路の洗掘防止、休耕田の畝の補修、泥のかき上げ、水路や畝周りの草刈り等により湿地環境の維持管理を行い、ホタルやカエル等の**生息・生育・繁殖環境の保全・創出**を行っている。



【導入技術の名称】

田んぼ調整池(休耕田による調整池機能の整備)

今後期待される効果

【保水力向上による流域治水貢献】

- 雑木林再生、田んぼ調整池整備等により、保水力が向上、雨を貯め下流への流出を遅らせる事で、治水への貢献が進む。1980年から「**鶴見川流域総合治水対策**」、2004年から「**鶴見川流域水マスタープラン**」を進める鶴見川流域において、源流保水の森の治水貢献は大きい。また、2020年から進む流域治水では、田んぼ調整池が「**鶴見川水系流域治水プロジェクト**」に組み込まれた。田んぼ調整池は、治水に貢献するグリーンインフラの取り組みとして、他の地域での実践が期待される。



【水と光のコントロールによる生物多様性貢献】

- 竹やササ等の伐採、水路や畝の草刈り等を通じて、谷戸を明るくし、下草や藻類の繁茂を促す整備を行った。また、保水力の向上、水路の洗掘防止等により、水循環が回復し平常時の湿地環境が整った。これにより、**ホタルやカエル、チョウ、トンボ等の多様な生物が暮らす谷戸が創出**された。整備は、様々な学校・企業・行政の参加・支援・協力を得て実施されており、今後の**ネイチャーポジティブ実現**に向けた優良モデルとして周囲へ波及させて行くことが期待される。



今後の展望

【GREEN×EXPO 2027との連携】

- 鶴見川流域水マスタープランのアクションプランとして、生物多様性と保水力を高めるためノカンゾウ・ハマカンゾウ・ヤブカンゾウを流域内へ展開する「**“鶴見川流域花咲く”アクションプラン**」が進行中。源流保水の森でも、ノカンゾウ・ヤブカンゾウの育成を実施している。この活動は、2027年に横浜で開催される「GREEN×EXPO 2027」全国連携プログラムにも登録されており、開催に向けた機運醸成を図る。

